



第3章

小・中学生に対するヒアリング調査

第3章 小・中学生に対するヒアリング調査

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

子どものICTメディアの利用実態および利用環境について、実際にICTメディアを利用している小学生・中学生を対象としたヒアリング調査を行った。これにより、定量的な調査では把握が難しい具体的なエピソードを収集し、詳細な利用の実態や、利用に関わる意識を定性的に把握した。

(2) 調査方法

1グループ4人の4グループ(小学5・6年生男子、小学5・6年生女子、中学1～3年生男子、中学1～3年生女子)に対して、1時間程度のヒアリングを行った。

インタビューは、株式会社日本リサーチセンターに委託して実施した。

(3) 対象者条件と抽出方法

対象者条件

- 1) 日常的に携帯電話(PHS)を利用している。
- 2) 自宅にパソコンがあり、日常的に利用している。
- 3) 小学生は5・6年生、中学生は1～3年生である。

抽出方法

株式会社ベネッセコーポレーションの保有するモニター会員に調査を告知し、協力可能の申し出のあった会員から条件に合う者を抽出した。

(4) 調査時期

2006年3月11日。

(5) 調査対象者の属性

4グループそれぞれの対象者の属性は、次の表(表3-1-1、表3-1-2)の通りである。

表 3 - 1 - 1 調査対象者の属性 (小学生)

小学生5・6年女子		1 - 1	1 - 2	1 - 3	1 - 4
学校・学年		公立・小5	公立・小5	公立・小6	公立・小6
家族構成		父親(40歳・会社員)、 母親(39歳・主婦/内職)、 妹(7歳・小1)	父親、母親	父親(45歳・会社員)、 母親(44歳・主婦)、 姉(15歳)、 祖父(77歳)、 祖母(75歳)	母(41歳・会社員)
習い事や塾		習い事(ピアノ教室)	学習塾	習い事(新体操)	習い事(英会話、そろばん)
通学方法		歩き	歩き	歩き	歩き
携帯電話	携帯電話について	家族と共有	自分専用	自分専用	自分専用
	使い始めた時期	小学校のとき	小学校1年生の8月	小学校6年生の11月	小学校6年生の4月
	普段すること	家族と電話	家族と電話、家族とメール	家族と電話、友だちとメール、ゲームをする	家族と電話、家族とメール、友だちとメール、携帯サイトを見る、ゲームをする
	使用頻度	あまり使っていない	かなり使っている	ときどき使っている	ときどき使っている
	周りの状況	ほとんど持っていない	かなり多い	かなり多い	それほど多くない
P C	パソコンについて	自分専用	家族で共有	家族で共有	家族で共有
	使い始めた時期	小学校1年生の4月	小学校3年生の6月	小学校3年生の7月	小学校1年生の4月
	普段すること	ゲーム、学校や塾などの勉強、インターネット検索、その他(ワープロ)	ゲーム、学校や塾などの勉強、インターネット検索	ゲーム、インターネット検索	ゲーム、学校や塾などの勉強、インターネット検索、Eメール、インターネットでショッピング
	使用頻度	かなり使っている	かなり使っている	ときどき使っている	かなり使っている
	周りの状況	かなり多い	かなり多い	かなり多い	それほど多くない

小学生5・6年男子		2 - 1	2 - 2	2 - 3	2 - 4
学校・学年		公立・小5	公立・小5	公立・小6	公立・小6
家族構成		父親(44歳・サラリーマン)、 母親(44歳・パート)、 姉(13歳・中1)、 弟(9歳・小3)	父親(43歳・会社員)、 母親(41歳・主婦)、 弟(9歳・小3)	父親(44歳・会社員)、 母親(41歳・自由業)	父親(42歳・会社員)、 母親(42歳・主婦)
習い事や塾		習い事(サッカー、体操)	習い事(テニス)	学習塾	習い事(英語)
通学方法		歩き	歩き	歩き	歩き
携帯電話	携帯電話について	家族と共有	家族と共有	自分専用	自分専用
	使い始めた時期		小学校3年	小学校の4年の12月	小学校4年の4月
	普段すること	家族と電話、ゲームをする	家族と電話、友だちと電話、その他(スケジュールなど)	家族と電話、家族とメール	家族と電話、家族とメール、ゲームをする
	使用頻度	あまり使っていない	あまり使っていない	ときどき使っている	あまり使っていない
	周りの状況	それほど多くない	それほど多くない	かなり多い	かなり多い
P C	パソコンについて	家族で共有	家族で共有	家族と共有	家族で共有
	使い始めた時期	小学校4年生	小学校1年生の1月	小学校4年生の4月	小学校1年生の4月
	普段すること	インターネット検索	ゲーム、学校や塾などの勉強、インターネット検索、Eメール、その他(資料を作る)	ゲーム、学校や塾などの勉強、インターネット検索、ホームページやブログを作る	ゲーム、学校や塾などの勉強、インターネット検索、Eメール
	使用頻度	ときどき使っている(週2~3回)	かなり使っている(毎日)	かなり使っている(ほぼ毎日)	かなり使っている(ほぼ毎日)
	周りの状況	それほど多くない	かなり多い	かなり多い	それほど多くない

表3 - 1 - 2 調査対象者の属性（中学生）

中学生女子		3 - 1	3 - 2	3 - 3	3 - 4
学校・学年		私立・中3	公立・中1	公立・中1	公立・中3
家族構成		父親(48歳・公務員)、 母親(44歳)、 妹(10歳)	父親(44歳・サラリーマン)、 母親(44歳・パート)、 弟(11歳)、 弟(9歳)	父親(44歳・会社員) 母親(42歳・主婦) 妹(9歳)	父親(40歳・仕事は不明)、 母親(39歳)、 弟(10歳・小4)
習い事や塾		通っていない	習い事(習字)	習い事(ピアノ・空手)	通っていない
通学方法		電車やバス	歩き	歩き	歩き
携帯電話	携帯電話について	自分専用	自分専用	自分専用	自分専用
	使い始めた時期	中学校1年の12月	小学校5年の8月	小学校5年の10月	中学校2年生の4月
	普段すること	家族と電話、家族とメール、友だちとメール、ゲームをする	家族と電話、友だちと電話、家族とメール、友だちとメール携帯サイトを見る、ゲームをする	家族と電話、家族とメール、友だちとメール	家族と電話、友だちと電話、家族とメール、友だちとメール、携帯サイトを見る
	使用頻度	かなり使っている	かなり使っている	ときどき使っている	かなり使っている
	周りの状況	かなり多い	かなり多い	かなり多い	かなり多い
P C	パソコンについて	家族で共有	家族で共有	家族で共有	家族で共有
	使い始めた時期	小学校1年生の4月	小学校3年生の4月	小学校3年の10月	小学校3年生の終わり頃
	普段すること	ゲーム、インターネット検索、Eメール	ゲーム、インターネット検索、Eメール	ゲーム、インターネット検索、インターネットでショッピング	学校や塾などの勉強、インターネット検索、Eメール、ホームページやブログを作る、インターネットでショッピング
	使用頻度	かなり使っている	ときどき使っている	かなり使っている	かなり使っている
	周りの状況	かなり多い	かなり多い	かなり多い	かなり多い
中学生男子		4 - 1	4 - 2	4 - 3	4 - 4
学校・学年		公立・中3	公立・中1	公立(国立)・中1	公立・中3
家族構成		父親(46歳・サラリーマン)、 母親(47歳)、 弟(12歳)	父親(48歳・会社員)、 母親(38歳・主婦)、 弟(10歳)	父親(49歳・エンジニア)、 母親(44歳・専業主婦)、 妹(10歳・小4)	父親(46歳)、 母親(47歳)、 妹(12歳・小6)、 祖母(83歳)
習い事や塾		学習塾	学習塾	通っていない(通信教育)	習い事(ピアノ)
通学方法		歩き	歩き	電車やバスで	歩き
携帯電話	携帯電話について	自分専用	自分専用	家族と共有	自分専用
	使い始めた時期	中学校2年生の12月	中学校1年生の5月	小学校6年生の4月	中学校2年生の9月
	普段すること	友だちとメール、携帯サイトを見る、ゲームをする、その他(写真)	家族と電話、友だちと電話、家族とメール、友だちとメール、携帯サイトを見る、ゲームをする	家族と電話、家族とメール	家族と電話、友だちと電話、家族とメール、友だちとメール、携帯サイトを見る
	使用頻度	かなり使っている	ときどき使っている	あまり使っていない	かなり使っている
	周りの状況	かなり多い	かなり多い	かなり多い	かなり多い
P C	パソコンについて	家族で共有	家族で共有	家族と共有	家族と共有
	使い始めた時期	小学校3年生	小学校4年生の4月	小学校3年生の4月	小学校4、5年生
	普段すること	ゲーム、インターネット検索	ゲーム、学校や塾などの勉強、インターネット検索	学校や塾などの勉強、インターネット検索	ゲーム、インターネット検索、Eメール、その他(ケータイ関連)
	使用頻度	ときどき使っている(週末は週4~5時間、平日はあまり使わない)	ときどき使っている(使う時は1日4~5時間、普段は1ヶ月に2時間)	かなり使っている(期末中は1日に1回、普段は1週間に1回)	かなり使っている(2日に1回)
	周りの状況	かなり多い	かなり多い	かなり多い	かなり多い

2 . 携帯電話の利用実態と意識

本章では、携帯電話やパソコンといったICTメディアの利用状況や、利用にあたっての意識について、小・中学生に直接たずねた結果を見ていくことにする。なお、子どもたちの回答を記述する際は、できる限り発言の通りの表現を用いたが、固有名詞や商品名などについては、発言の趣旨を損ねない範囲で改変している。

それでは、最初に、携帯電話(以下では、PHSも含む)の利用実態と意識を確認しよう。子どもたちは、どのようなきっかけで携帯電話をもつようになり、どのような目的でそれを利用しているのだろうか。

(1) 携帯電話を利用する契機

専用機の保有は、習い事や塾の帰宅時に連絡を取る必要がきっかけになるケースが多いようだ。中学生になってクラスの友だちに携帯電話保有者が多い環境になり、友だちつきあいのツールとしての必要性から利用を開始するパターンもある。

小学生で利用開始する場合は習い事・塾をきっかけに親から子どもに持たせるケースが主。小学生の場合はほとんどが親の方から言い出して子どもに持たせており、子ども側から積極的に望んだケースは少ない傾向が見られた。それまで家族全員で共有だったものや親が使っていたものを「おさがり」として譲り受ける、発信相手限定のPHSから利用開始するというケースも女子で複数見られた。また、小6生になると「そろそろ自分専用機を持たせてもよい時期」という感覚が親のほうにある様子である。

- ・小学校3年生の時から、習い事のときの連絡用に、家族で共有して使っていた。6年生になってから、もう6年だしこれは自分専用って、自然の流れで自分専用になった。(小6生女子)
- ・小学校4、5年くらいから塾とか習い事で帰りが遅くなるから携帯持ちなさいって言われた。母親のいないのをお下がりでもらって使ってる。(小6生男子)
- ・小学校6年から、塾のときの連絡用に自分専用機をもらった。毎回公衆電話だと不便だからと、親のほうから。まだ小学生だったので使用者限定のPHSでした。(中3生女子)

中学生では、友だちつきあいのツールとしての必要性が利用開始理由

中学生になると、周囲の友人に保有者が増え、携帯メールのやり取りの輪に入りたいと子ども自身が望んだり、友だち作りに必要になりそうだと親が心配して買い与えたりするケースが出てくる。「親との必要な連絡のための道具」から「友だち同士のつきあいのための道具」に位置づけが変わる。

- ・クラスの4分の3以上の人を持っていて、ないとあるでは世界が違う。欲しいって親に頼んだら買ってくれた。(中1生男子)
- ・中2の夏休み明けに大阪から転校してきて、こっちで友だち作るのに不便かなって、両親が買ってくれた。欲しいとは思っていたけど高校からでいいやと思っていたのでちょっとビックリした。(中3生男子)
- ・中学で入学祝に買ってもらう人と高校で買ってもらう人に分かれている。

(2) 携帯電話の利用内容

小学生では家族との連絡、中学生では友だちとのメールが主な用途である。中学生では、コミュニケーション機能(電話、メール)、情報検索機能、その他の機能(時計、メモなど)のすべてを使いこなしているケースが多く聞かれた。

小学生では、家族との連絡が主な用途

今回の対象者では、家族との連絡が主な用途となっており、友だちとの連絡ツールとしてはそれほど積極的に使ってはいない様子だった。発信相手の限定や、ダウンロード禁止など、親から利用機能を制限されているケースも少なくない。

ただし女子では、周りの友だちの間で「クラス内の噂話がメールで回ってくる」「ギャル文字で遊んでいるらしい」状況がある。中学生の姉がいるケースは、音楽のダウンロードの利用もあった。

「時間割の登録」「ストップウォッチ」「ゲーム」「写真撮影」などに利用するケースや、男子では機械として関心を持っているケースも見られた。

- ・電話は通話料が馬鹿にならないから、するのは家族。あまりしていないけど、たまに友だちとメール。(小6生女子)
- ・話すのはお母さん、お父さんかおばあちゃんがほとんど。メールは友だちとは禁止されている。(小5生女子)
- ・音楽をダウンロードしたり、お姉さんからもらったり。(小6生女子)
- ・携帯のネットはしてはいけないといわれている。お許しが出たらゲームをダウンロードしたい。(小6生男子)
- ・携帯は塾のお迎え連絡用。友だちは同じマンションに住んでいるから直接行った方が早い。(小6生男子)
- ・スケジュールをタイマーでアラーム設定できるのが便利。(専用機は持っていないが魅力に感じている)(小5生男子)

中学生は、友だちとのメールの重要性が大きく増し、利用機能の幅も拡大

中学生になると、部活の連絡網や、クラスの友人とのメールが日常的にやり取りされており、携帯電話を持っている子といない子とでつきあい方を変える意識なども見られる。携帯電話を持っていないと学校生活に不便が生じる場面もあるようだ。インターネット接続への親からの制限も、使いすぎて高い利用料にならないようにという注意にとどまり、利用制限はゆるやかになる様子である。周囲の友だちのなかには、ダウンロードを繰り返し、万単位の利用料になる「使いすぎ」ケースが複数報告された。メモ機能やスケジュールなどの便利機能を活用している様子も報告された。

- ・先輩との連絡網代わり。電話だと不在時に後からの連絡も大変なので、メールのほうが多い。(中3生女子)
- ・部活連絡はほとんど携帯のメールに来る。持っていない人には、ついでに誰誰に電話しておいてとか。友だちには遊びに行こうという誘いのメール、携帯電話を持っていないと誘いにくい、誘われにくくなっちゃう。(中3生男子)
- ・時々サイトを開いてゲームや音楽をダウンロードする。(中3生男子)
- ・少ないけど、メールは禁止で携帯は緊急連絡用だけという人もいる。(中1生女子)
- ・物語を書くので、アイデアをメモ帳に打つ。(中1生女子)

(3) 日常生活における携帯電話

小学生では友人間での保有率も低く、利用機能も制限されたりしていることから、日常生活への影響は比較的限定されている。

中学生では、友人間で「プライベートの/用事ではないメール」が男女問わず日常的に行われるようになり、大きな影響力を持っている。一方で、そのような友人との「用事ではないメール」に意識的に距離をとる態度を確立しているケースもある。

学校生活と携帯電話

小学校では、学校に携帯電話を持ってきてはいけない決まりがあるところが多く、ほぼ守られている。一部に持ってくる生徒がいる様子だが、「決まり違反」として問題になっている程度。

中学校でも、学校の通常授業時は持ってこないよう指導されているが、学年が上がるにつれて守らない生徒が増加するようである。

- ・持って来てはいけないのに持ってきている子がいて問題になった。(小6生女子)
- ・持ってきちゃだめです、でも誰も守ってない。(中3生男子)

- ・授業でないときは漫画やゲーム、携帯もOK。授業中いじるなって言われるけどやっている人はいる。(中1生女子)

また、「チェーンメール」が問題化しており、学校側が文書を出すなどの対応をしている。

- ・「チェーンメールが回ってきたら自分で消去しなさい」という手紙が学校から出された。(中1生女子)
- ・どうしても送りたいならこのアドレスに送れというアドレス紹介の手紙が学校で出た。(中3生女子)
- ・「チェンメ(チェーンメール)を作るな、メールであまり悪口言うな」など学校から指導がある。友だちの悪口のチェンメはあまり無いが、先生の悪口は結構ある。(中3生男子)

一方で、部活での連絡網に携帯メールが使われている現状もあり、学校生活での携帯電話の必要性を増している。

- ・部活連絡はほとんど携帯のメールに来る。持っていない人には、ついでに誰誰に電話しておいてとか。(中3生男子)

友だちとのコミュニケーション

小学生は、女子の方が保有率が高いという発言もあり、噂話のメールが友だち間で回る状況も報告された。しかし、持っていないことが友だちづきあいの障害となることは少ないようで、むしろ対面で遊んでいる場が第三者からのメール・電話で妨害されて不快だったというケースがあった。

- ・あまりしていないけど、たまにメール。大した話はしない。友だちから恋愛相談をされたり……。クラスの誰が誰を好きとかすごく流れてきて、面白かった。(小6生女子)
- ・(自分はしないが)女子はいろんなところに友だち間で電話とかメールとかしているらしい。女子は大半が所有している。男子は家にお母さんがいない(=働いている)子は持っている。(小6生男子)
- ・(携帯電話が無くなったとしても)あまり変わらない、大事なことは携帯で話してないから。(小6生女子)
- ・携帯持っているぞって自慢してくるからカチンとくる。持っている人はクラスの半分以下。(小5生男子)
- ・自分のお友だちと遊んでいて、その子に何回も電話がかかってきて遊べないことがあった。(小5生女子)

中学生では、男女ともに友だちとの「プライベートのメール」のやりとりが活発化する。メールでのやり取りが対面状況で話題になることもあり、携帯電話を持っていない人と話題を使い分ける意識を生んでいる。携帯電話を保有していない人は「遊びの誘いを受けられない」「学校行事などをめぐるお喋りを共有できない」ため、保有の有無は友だち関係に大きく影響する要素となっている。

- ・携帯を持っていない人と話すときは携帯の話題にしないようにして。(中3生女子)
- ・携帯を持っていない人は会話に入れない。(中3生女子、中1生女子)
- ・学校で話すより、家に帰ってメールで話をするのが多い。ないと仲間はずれ。(中1生女子)
- ・学校の友人と、どこか行こうとか、電話で話してみたい、チャットするみたいな感じで、喋っている感じでメールする。話す内容は学校であったこととか、学校行事の後は何々のこが悪かったとか……。(中3生男子)

「用事でない会話」をすることによって、安心感を得ているほか、転校経験のある男子では、昔の友だちとつながっているための手段として重視しているという意見があり、友だち関係にあることを確認する手段として重視されている。

- ・普通の会話のメール(「今何している?」「何した」「今日何した?」など)は、友だちとコミュニケーションとってるから安心(を感じる)。(中3生女子)
- ・(携帯電話がなくなったら)遠くの友だちと連絡が取りにくくなるから。切れるかもしれない(ので困る)。(中3生男子)

友だち同士の距離感に対応したメールの作法も生まれている。メールアドレスを教えるかどうか、友だち関係のなかでコミュニケーションが成立する重要な要因となっており、トラブルの原因ともなっている状況が主に中学生女子で語られた。

- ・メールは誰でも、同学年でも先輩もする。親しくない人にはこちらからはメールしない。向こうから来ればする。(中1生男子)
- ・トラブルも多い。メアドを教えたくない人にも、許可取らないで送ったり。教えてって言われて勝手に送られて。(中1生女子)
- ・教えてもいい?と言われて断れない。(中3生女子)

なお、女子からは、「メールを打つ」=「言葉で表現すること」のよい効果を意識している

意見が複数あがった。

- ・一度文章にしているいろいろ考えるから、自分の考えをまとめて、ハッと、「そうだったんだ」って気づくこともある。(中3生女子)
- ・面と向かって話すよりも言葉に打つと言いやすい。(中3生女子 複数)
- ・おとなしい子は話してくるというよりもメール。話が苦手でもメールで手軽にできるから、そういう友人は2～3人います。(中1生女子)

家族とのコミュニケーション

小学生では、携帯電話での連絡相手は家族が主となっており、普段顔をあわせにくい父親とのコミュニケーションの手段ともなっている様子。携帯電話を使い始めたきっかけが習い事や塾の際の連絡である場合、「親を安心させるために持つ」という意識が子どもの側にある。

一方、中学生の思春期初期で自立し始めの子どもにとっては、親が連絡してくるのがいやだという意見もあがった。

- ・お母さんから携帯電話を借りて、お父さんにメールすることもある。お父さんがスキーを計画していることをメールで教えてくれた。よかった。(小5生男子)
- ・(塾通いのために強制的に持たされた。)携帯電話はないほうがいい、親がどこにいますか、かきつこく電話してきて鬱陶しい。(中1生男子)
- ・好きな人の話など、家の電話で親に聞かれないので、携帯を使ってよかった。(中1生女子)

家の電話では話したくない友だち同士の内緒の話ができる手段として、携帯電話は、家族とは別の世界を持つための重要なツールとなっている。これに対し、親側が「夕飯時にはメールをするな」などの決まりを作っている家もある。

子どもが一人で過ごす時間への影響

夜でも友人からの連絡が来るため、自宅で勉強中に集中力をそがれたり、睡眠が妨げられたりするほか、何をするでもなくつねに携帯電話を手に入れている「使いすぎ」な人がいるなどの状況が報告された。友だちからのメールにはすぐに対応しなければいけないという意識から、自分のペースが崩される状況がある様子である。携帯電話は、子どもが時間をコントロールすることを難しくする要素にもなりうる可能性がある。

3. 携帯電話利用の問題点に関する認識

(1) インターネット情報の危険性への認識

携帯電話は基本的には身元の分かる友だちとのコミュニケーションの道具であるが、中学生を中心にインターネットとの接触も日常化している。「インターネットをやりすぎて高い利用料にならないよう注意」という意識は強いが、有害なサイトに接触する危険性への意識はあまり語られなかった。女子では「変なメールが来る」「出会い系の迷惑メールが来る」などの迷惑メール経験や「ワンギリ」で怖い思いをした経験、写真の撮れる携帯電話で合成写真が出回った経験などがあり、警戒心を持っている様子も見られた。

- ・簡単なアドレスだったので、出会い系のメールが多くて、アドレスを変えた。(小6生女子)
- ・集合写真を誰かが合成してサイトに載せたのが嫌だった。(中3生女子)

(2) 使いすぎ・依存性を感じる基準

子どもから見た「使いすぎ」の基準は、「深夜(12時以降)にもメールをする」「メールや電話の必要がないときにも電話を手をしている」「ダウンロードを無制限にして、高額な利用料を請求されている」などである。

(3) 「プライバシー」意識への影響

中学生では、携帯電話は「家族と共有ではない、自分自身のもの」であり、「個人的・プライベート」なものとして重要である。メールでも、「親に見られてもよいものはパソコン」「親しくしたくない友人には、携帯メールのアドレスは教えず、パソコンのフリーメール」などの使い分けをしており、携帯電話は自分の意思で構成したプライベートの世界を構築するチャネルとなっている。

「プライバシー情報」が詰まっている携帯電話端末が、いたずらにいじられることがあり、友だちとのコミュニケーションにおいてトラブルの火種になりうる要因となっている。

- ・人に見られるのはいやです。鞆に入れて、席をはずして戻ってきたらいたずらされたり、見られたり、そういうのはいや。誰かがやられていたり、自分がやったり。いたずら半分なんだけど、やられた側にしたらダメージ大きい。(中3生男子)

(4) 「いつでも即対応」を期待する/される意識

携帯電話はいつでも連絡がつくので、すぐに返事が返ってくることを期待する態度が強くなっている可能性を示す発言が散見された。

- ・勉強しているときメールが入ると、関係を崩したくないときとか、集中が切れてしまう。
（中1生女子）
- ・すぐに返事が欲しいのに、なかなか返事が来ない。その人の意見も聞かなければならなかったのに、返事が来ないのがいらいらした。（中3生女子）
- ・チャットみたいな、しゃべっているみたいな感じでメールする（出したらすぐ返事が返ってくる）。（中3生男子）

4 . パソコンの利用実態と意識

(1) パソコンの利用開始契機

小学生・中学生ともに、小学校の中学年までにはパソコンの利用を開始しているケースが多いようだ。今回の対象者では、小学生の半数近くが就学前から利用を開始していた。家にパソコンがあるのが「普通」であり、自然にゲームを使い始めた、というケースが多い。一方、中学生では、小学校の中学年ごろ始まる調べ学習がきっかけになったり、友人の影響で始めたりするケースがあげられた。パソコンの世帯普及率は 2000 年に過半数を超えている（総務省情報通信政策局『通信利用動向調査』）。今回、対象となった小 5・小 6 生は、この前後に小学 1 年生になっている世代であり、この世代の特性がうかがわれた。

(2) 小学生は、「家に普通にパソコンがあった」という形で利用開始

家庭にパソコンが入ってきた時に関心を持ち、ゲームを入りに子どもから積極的に利用を開始したケースが多いようだ。小学校に入学する以前から利用していたというケースも少なくない。この場合、親が仕事や趣味でパソコンを使っており、パソコンへの関与度が高い様子もうかがわれた。一方、早い段階から家庭で保有していても子どもが中学年になっても関心を示さない場合、親側からソフトを与えるなど、利用を喚起するためのアクションを起こしているケースもあった。

- ・ゲームだけなら幼稚園から。機械系が好き。パソコンは前からあった。(小 6 生女子)
- ・幼稚園のころから、お父さんがパソコン好きで影響を受けた。お下がりをも自分専用に使っている。(小 5 生女子)
- ・2 年生でパソコンがうちに来たときから使ってる。いじっていたらお母さんが使い方を教えてくれた。(小 5 生女子)
- ・かあちゃんがパソコン向けの仕事をしているので、結構早いころ、小学校前からいじっていたかもしれない。気がついたら使っていた。(小 6 生男子)
- ・パソコンは小学校 1 年生のときからあったけど。4 年生のときにローマ字を打つソフトをお父さんが買ってきてくれて使い始めた。(小 5 生男子)

(3) 中学生は、学校関係のきっかけで利用を開始しているケースも

小学生同様、家庭にパソコンが入ってきたときに自然に関心を喚起されたケースも複数あるものの、利用を始めた契機として意識されているのは、小学校中学年で始まる調べ学習や、学校の友だちの影響などであった。

- ・小 1 のころにはゲームをしていた。(中 3 生女子)
- ・小さいころからパソコンがあって日常的な存在だった。小学校 3 年生の時調べ学習を学

校で調べ切れなかった分を、「そうだ家にも同じのがあるじゃん」って、調べた。(中1生女子)

- ・小学校4年生のとき、学校でムービーとかゲームの面白いサイトが流行った。やり始めてはまった。(中1生男子)
- ・以前から使っていたかもしれないけど覚えてない、小学校3年生のとき、クラスにメールができる友だちがいて、それが楽しくて使い始めた。(中3生男子)

5 . パソコンの利用内容

就学前～小学校中学年まではゲームが中心で、調べ学習などの課題が始まる小学校中学年ごろからはインターネットによる情報検索が行われている。小学校高学年や中学生になった現時点では、ゲームに「はまる」タイプ以外ではインターネットによる情報検索ツールとしての利用が主となっている。メールの利用は携帯電話が主であるようだ。

(1) インターネットでの情報検索が中心

小学生では「ゲーム」と「インターネットでの調べもの」が中心である。学校の課題関係の調べもののほか、「新しい書籍の情報を検索して図書館で予約する」まで使いこなしているケースもあった。ゲームへの関心から、その情報を検索したり、関連の掲示板などを利用し始めたりしている例もあり、ゲームやマンガの情報が集まっているホームページが子どもたちの間で流行している様子も一部でうかがわれた。

- ・インターネットのゲームをしたり、調べ学習の時に調べてみたり。ブログは見ない(小6生女子)
- ・インターネットで気に入った本が新しく出るのを調べて図書館の本の予約をする。後は趣味(韓国ドラマ)のブログを見る。(小6生女子)
- ・雑誌のホームページで手紙をダウンロードできるのを使っている。(小5生女子)
- ・インターネットで調べものや、キーボードの早打ちゲーム。(小5生男子)
- ・インターネットのマンガみたいなサイトを見る。見るのはほとんどがこのサイト。いろんなホームページを回らないで済むので手軽でよい。(小5生女子)

中学生でも、インターネットによる情報検索が中心であり、ゲームや音楽などの趣味に関する情報を検索したり、学校の授業に必要な調べものに利用したりしている。とくに社会科の課題で「図書館に行くのが面倒だから」という声が複数聞かれた。今回の対象者では、男子でゲームへの言及が多かった。

- ・好きなアーティストのCDの発売とか、ブログを見る。(中3生女子)
- ・ゲームの情報。攻略方法を調べるのがメインで、それ以外はオークションを見て情報収集する。(中1生男子)
- ・ゲームをダウンロードしたり、携帯電話の着信音を自分で作れる無料のサイトを使ってみたりする。(中3生男子)
- ・学校の勉強の調べものや友だちのブログを見る。学校行事のときにプレゼンテーション用ソフトや表計算ソフトで展示物を作る。(中1生男子)

- ・小学校の頃に自由研究が面倒で、自由研究のネタが載っているサイトを探してパクッてた。中学校になってからは、社会科の調べものを図書館代わりに使ってた。(中3生男子)

(2) ホームページ・ブログ作成への関心

「ホームページやブログを作りたい」という声が男女を問わず複数聞かれ、今回の対象者では、小学生でより積極的な意向があった。親がパソコンを使う仕事をしている小学生の男子で、すでにホームページを作成しているケースもあり、自分の得意分野としての自信を深めている様子がうかがわれた。中学生でも、ホームページを作成し、写真をアップロードして古着を売っている、というケースが見られた。学友のブログを気にする様子などもうかがわれた。

- ・ブログを作りたい。大手検索サイトで簡単に作れるはずだけど、更新が面倒そうなのでまだ実際にはやってない。(小6生女子)
- ・ブログをしたいけど作り方が分からない。ゲームが好きなのでゲーム専門で作りたい。(小5生女子)
- ・5～6年の頃にホームページを作った。パソコンが少しできるようになった4～5年の頃以来の「プチ夢」だったので、達成感があった。お母さんに教えてもらった。(小6生男子)
- ・中3生のときパソコンが得意な友だちに作り方を教えてもらって作った。あるアイドルが好きだったので、そのホームページを作った。今はお金が無いときに洋服を携帯のカメラで撮影して、パソコンに送って売るのに使っている。(中3生女子)

(3) ショッピング・オークションなどの利用

小学生ではショッピング、オークションなどの利用はあがらなかったが、懸賞への応募や雑誌のホームページへの投稿をしているケースがあった。懸賞の応募では、「変なホームページに応募して変なメールが来るようになった」という経験も報告された。

中学生では、一部でショッピングやオークションの利用もある様子であった。

(4) ワープロや表計算ソフトなどの活用、その他のパソコン利用内容

ワープロ・表計算ソフトの利用については、学校での課題のほか、趣味として文章の作成を行っていることをうかがわせる発言が複数あった。

- ・来年学校で同人誌を作ろうとしていて、パソコンのワープロで小説を書いている。(小5生女子)
- ・最近では作家活動をしている。パソコンのワープロで文を作っている。(小6生男子)
- ・物語を書くことにはまっている。パソコンはキーボードを打つので楽。親に見られてもよい(演劇部で使う)台本はパソコンで打つ。(中1生女子)

また、自分専用のパソコンを保有している小学生で、DVDを見るために使っているケースもあった。

6 . パソコンと子どもの日常生活

小学生では、クラスやパソコン教室の共有パソコンで使える全校生徒をつなぐソフトの利用法をめぐり、問題が生じたり、不安を感じたりしているとの発言が、女子からあがっている。

子どもにとってパソコンの魅力は、情報収集の利便性や、パソコンを使った自己表現にあるようである。子どもなりに匿名性や情報の信憑性を疑う意識ももっているが、安易な利用の防止や情報を吟味する能力の育成が必要だと思われるケースもあった。

なお、友だち関係におけるパソコンの影響についてみると、パソコンを介して行われるコミュニケーションの相手は「身近な人」ではないようであり、友人とのメールは携帯電話、インターネットの掲示板で知り合った相手とはパソコンのメール、などの使い分けがある様子だった。

(1) 学校生活におけるパソコン

小学生では、学校でキーボードについての指導があるほか、学校向け学習支援ソフトなど、個人でデータを持つことができるソフトやパソコンで、クラス日誌や学校行事の資料を作成するといったことも行なわれている。

- ・子ども祭りの実行委員でクイズラリーの資料をワープロソフトで作った。(小5生男子)
- ・パソコンでクラス日誌を打っている。うちのクラスだけだと思う。(小5生女子)

一方、共有パソコンの利用をめぐって決まり違反などの問題がおきたり、パソコンで個人のデータを持つ仕組みに対して、個人情報に侵害されることに懸念を感じている回答も見られた。

- ・他の学校で、男子がアダルトのサイトに入って、学校のパソコンの使用が禁止になった話を聞いた。(小5生女子)
- ・全クラスにパソコンがあって、違う学年の人にもメールができて、学校でいろいろ教えられている。学校中の誰にでもメールを送れるし、クリックするだけで(他人が)勝手に入って使えるので、他の人が入っていやな内容のメールを送れる、今までうちのクラスではないけど、ありそうで怖い。(小6生女子)
- ・学校の図書貸し出しで、貸し出し状況を見られるのだが、他人の名前で検索して調べられて、禁止になった。(小5生女子)

中学生では、技術や社会の教科学習の中で、機械的な仕組みやインターネットのアクセス法などの指導を受けており、女子では役に立つと感じている人が多い。その一方で、男子では物足り

なさや、アプリケーションに対してその後の利用シーンのイメージが持てなかったため、有意義と感じられなかったという意見もあった。

- ・知っていたこともあるが独学だから、学校で教えてもらってありがたかった。(中3生女子)
- ・知っていることばかりだった。プレゼンテーション作成ソフトや表計算ソフトも仕事になれば使うかもしれないけど、(今は)あまり意味はなかったと思う。(中3生男子)

(2) 子どもにとってのパソコンのメリット

子どもがパソコンに見出しているメリットは、第一に情報収集手段としての利便性である。その信憑性を吟味する視点も持ってはいいるが、「調べもののために図書館に行く面倒を省ける」という安易な利用の仕方をしているケースもある。書物情報と違って、動画や音声による情報を得られるのがよいという意見もあった。

- ・インターネットで最新の情報が分かる。(小5生男子)
- ・インターネットで調べたらすぐいっぱいいろいろな情報が出てくる。(小5生男子)
- ・いろいろな情報が、正確さはともかく早く大量に手に入る。(中3生女子)
- ・図書館に行かなくてよい。小学校のときは自由研究のネタが載っているサイトを探してパクってた。今は社会科の課題で必要な調べものに使って便利。(中3生男子)
- ・(手品のネタなどを調べるときもあるケースで)本は絵があっても動かない。インターネットで得られる情報は、ムービーとか音があって分かりやすい。(中3生男子)

一方、ホームページを始めとするパソコンを使った自己表現に魅力を感じている声も複数あがっており、得意分野として自信につながっているケースや、ワープロでの文章表現や音楽ソフトを使った作曲などへの意欲が見られた。

- ・ホームページを最初に学校で作ったのはオレ。(小6生男子)
- ・音楽ソフトを作っているサイトがある。すごいな、自分もやってみたいな、挑戦してみたいと思う。(中3生女子)

(3) パソコンと友だち関係

パソコンでメールをすることはあまりなく、する場合もその相手は「掲示板で知り合った人」「インターネットのフリーマーケットでの取引相手」など、距離のある関係の人があがっている。身近な友人との関係にパソコンが関係してくるのは、関心のあるホームページについての情報のやり取りや、パソコンの使い方の教え合いなどの対面状況か、友だちが作っているブログを見る

などの形である。

- ・パソコンのメールはメールマガジン用。(中3生女子)
- ・フリーマーケットで物を売る取引相手とはパソコンのメール。(中3生女子)
- ・学校の友だちのブログは、あいつ何やっているのかなって、たまにみにいく。(中1生男子)

掲示板への書き込みやチャットなど、匿名の他者とのコミュニケーションは、ゲームやタレントのファンなど、趣味に関する掲示板を利用しているケースで見られた。小学生では、掲示板上のやり取り以上のコミュニケーションは報告されなかった。中学生では、掲示板で知り合った相手とメールのやり取りまでしているケースもあったが、「携帯メールはしない」「住所まで知っていても、直接会うことはしない」という形で親しい友だちとは区別したつきあい方をしている。

- ・(パソコンでの友だちは)掲示板でよく「じゃあね」というのがいる。誰が誰だかわからないから怖いとかもない。(小5生男子)
- ・自分のホームページの掲示板に来る人と世間話をする。(来るのは実際の友だちが多く、そこだけの友だちはいない。)普段の友人づきあいととくに変わらない。(小6生男子)
- ・インターネットでしか知らない人には、新しいアドレスを登録してそこでしかメールしない。メールアドレスを教えるって言われたからイヤだって言うのもなんなので教えるけど、たまにしか見ないし、形だけ。(中3生男子)
- ・あるアイドルのホームページを作っていたときには、ホームページ経由で友人になった人もいた。そのアイドルの話ですごく盛り上がった。プリントシールの交換とかして住所も知っているけど、会ったりはしない。二十歳の子も、年下の子も、タメの子もいる。(中3生女子)

(4) 小学生では、家庭での利用時間制限があるケースも

今回の対象者はパソコンを使う頻度が高めの人が多かったこともあるが、小学生で、家庭で利用可能な時間を制限されているケースが複数あった。

- ・外で遊んだ時間の倍だけ、パソコンをやってよいことになっている。調べ学習は別で。(小5生女子)
- ・制限時間は1時間、だけど1時間半とか2時間とかしている。(小5生女子)

7. パソコン利用の問題点に関する認識

インターネットでの情報は必ずしも信憑性が高いわけではないことは、知識としては一応知っている。掲示板など匿名の発言が飛び交う場での悪意ある書き込みや、不快な映像などに遭遇したさまざまな経験も報告され、「いやな目に遭うこともある」という意識がある。また、プライバシーが侵害される危険性について意識の高い人もいる一方で、「自分は注意しているから大丈夫」と軽く考えている様子も見られた。

(1) インターネットで入手する情報に対するリテラシー

インターネットでの情報は、誰が言っていることなのか分からない、根拠の無いものも多いという意識はあり、有害画像やウイルスへの警戒が必要であることも知識として知っている。今回の対象者では、おもに中学生で警戒する声が聞かれた。実際に、好奇心にかられてネットサーフィンをした先で不快な画像に遭遇したり、ウイルスに感染したりして怖い思いをした経験を持つケースもあった。

- ・投稿の情報サイトなど、嘘の情報もある。インターネットは本当にたくさん情報があるけど、嘘もある。(中3生男子)
- ・ウイルスがついてくるのが怖いから友だちとのメールはやらない。(小5生女子)
- ・芸能人が整形していると聞いて、整形前の顔を検索しようとしたら、すごく怖い画像が出てきて、涙が出るほど怖かった。友だちは首が切られる画像が出たり、そういうのは怖いからアクセスしないようにしようと思った。(中3生女子)
- ・誰がしているのかわからない、怖い画像や大人のとか。どんなものでも出てきちゃうから、巻き込まれたりしないか、怖い。(中2生女子)

(2) ネット上のコミュニケーションに対する危機感

掲示板を契機とする「インターネット上の友だち」とのコミュニケーションの中で、匿名性が引き起こす悪意に遭遇した経験が、女子から複数報告された。

- ・掲示板で見ていると、ニセモノが同じ名前使って出たり、バカとか言ったり。ネットは顔が見えないから怖い。(小6生女子)
- ・キャラクターでチャットしていると、わざとそのキャラクターの上にかぶってきたりして嫌な思いをする。(小5生女子)
- ・一度、掲示板荒らしの現場を見たことがある。「消えろ」とか「死ね」とか。怖いなって。(中3生女子)
- ・集合写真から誰かが私の写真を合成してサイトに載せられたことがあって嫌な思いをし

た。(中3生女子)

基本的には「インターネット上の友だち」には個人情報教えてはいけない、という意識が働いているようだ。しかし、「直接会わない」「携帯電話の連絡先を教えない」でいれば安全だと思っている可能性があり、個人情報を守るための具体的な方策についての理解は十分ではない恐れもある。

- ・インターネットでしか知らない人には、新しいアドレスを登録してそこでしかメールしない。(中3生男子)
- ・(ホームページを通して友人になった友だちとは)手紙でプリントシールの交換とかして住所も知っているけど、会ったりはしない。(中3生女子)

まとめ

本章では、小・中学生に対するヒアリング調査の結果をもとにして、子どもたちの携帯電話やパソコンの利用状況と利用に関する意識を見てきた。本節では、そうした子どもたちの生の声を総合的に、小学生と中学生の違いに注目しながら、特徴的な傾向をまとめていきたい。

(1) 携帯電話の利用に関して

最初に、携帯電話の利用に関して見ていこう。小学生と中学生の違いとして特徴的に表れているのは、以下の点である。

コミュニケーションの相手が、「保護者」中心か「友だち」中心か

小学生の場合は、保護者が家族との連絡用に持たせるケースが多く、コミュニケーションの相手も保護者が中心である。全体の所持率が低く、友だち同士で電話やメールをやりとりする場面は少ない。

一方、中学生の場合は所持率が高まり、友だち関係の維持のために必要となるケースが増える。日常のやりとりも、友だちが中心となる。発達段階の観点から考えても、保護者との距離をとりはじめの時期であるため、保護者とやりとりをする場面は減少するものと考えられる。

利用する機能が、「電話」中心か「メール」中心か

小学生は、保護者との連絡の際も、電話を用いることが多い。使われる場面が保護者とのやりとりに限定されるため、メールを利用する機会が少ないようである。

一方、中学生の場合は、友だちとのコミュニケーションが増える一方で、電話はコストが高いという事情があるため、メールの利用が増える。

利用する頻度が、「低い」か「高い」か

小学生は、携帯電話を利用する場面が少なく、利用する機能も限定的であるため、専用の携帯電話を所持する子どもであっても、それほど依存的に利用している傾向は見られない。

一方、中学生になると、メールの授受が友だち関係に影響を与えることがあるため、頻繁にメールのやり取りをしている様子が見えてくる。メールに対してすぐに返信しなければ気がかりであるといった依存的な傾向もみられる。さらに、コミュニケーション機能だけでなく、情報検索機能やその他の機能（時計、メモ、ゲーム、写真撮影など）も利用するようになり、利用頻度が高まる様子が見て取れる。

これまでまとめてきたように、携帯電話については、小学生と中学生で利用状況が大きく異なり、利用に関する意識にも差があることがわかる。携帯電話が、コミュニケーションの円滑化や親子/友だち関係の活性化に寄与している様子がうかがえる反面で、中学生になると友だちとのやりとりが頻繁になるため、携帯電話の利用に関連したトラブルも発生している。さらに、迷惑メールやインターネットの有害サイトに触れるケースも多くなるようである。

携帯電話を利用するメリットは学年を問わず一定して存在するものの、とくに「負」の側面が中学校段階で拡大している。この点を考慮すると、携帯電話の利用に関する教育は、中学校入学前の段階で行うのが効果的ではないかと考えられる。

(2) パソコンの利用に関して

続いて、パソコンの利用に関して、ポイントをまとめよう。パソコンについては、携帯電話とは異なり、小学生と中学生の差があまり見られない。むしろ、両者に共通した傾向のほうが多く見られる。

かなり身近なツールになっている

今回のヒアリング対象者は、パソコンの日常的な利用者に限っている。そのため、すべての子どもの傾向とはいえないが、対象者の多くが「気づいたときには利用していた」と回答しており、パソコンがかなり身近なツールになっていることがわかる。

主要な利用目的が情報検索である

情報検索で用いる場面が多いのも、小・中学生に共通する傾向である。学校の調べ学習に利用するケースも多いようであり、子ども自身も情報収集の利便性を強く認識している。

一方、コミュニケーションツールとしての利用は、相対的に少ない。主なやりとりの相手も学校の友だちではなく、心理的にも物理的にも一定程度距離の離れた人との交流に利用している。この点は、携帯電話と異なる。

ホームページやブログに対する関心が高い

対象者の発言からは、ホームページやブログの作成に対する関心の高さがうかがえる。すでにホームページを作成しているケースもあり、自己表現の場としての魅力も感じているようである。

以上のように、パソコンは必要な情報を入手したり、自ら情報を提供したりして、さまざまな情報が集まる場として認識されている。実際には、情報検索で利用するケースが多く、ホームページやブログなどでの情報発信は少ないものと考えられるが、積極的に発信をした

いという意識をもつ者も多いようである。

このような状況にあって、子どもたちもある程度は、情報の信頼性に対する不安をもっている。情報検索を中心に利用しているため、悪意をもった発信や有害情報に対する不快感をもったり、ウイルスに対する警戒感を抱いたりする機会も多いようである。

パソコンの利用については、小学校段階から多くの子どもが情報収集の利便性を享受しており、小学校高学年の段階ではかなり頻繁に利用している様子がうかがえる。こうした状況を考えると、その利便性のメリットを最大限に活用するためにも、この段階から、ICTメディアリテラシーに関する教育を行うのが適切ではないかと考えられる。